

屋久島フィールド調査（2回目）

「激甚災害と年代測定グループ」の木村勝彦（福島大学）、平峰玲緒奈（国立歴史民俗博物館）、所岳寛・奥野充（大阪公立大学）は、2025年12月1日～4日に、鹿児島県屋久島の宮之浦川、永田川、ヤクスギランドにおいてフィールド調査を行いました。屋久島での調査は、2025年6月以来、約半年ぶり2回目となります。

前回と同様に、宮之浦川および永田川に分布する鬼界カルデラのアカホヤ噴火（約7.3 cal ka BP）に関連した軽石質堆積物中に埋没している未炭化の樹木試料（写真①）を調査しました。半年間にわたる侵食や河川水量減少により、新たに埋没樹木が露出しており、前回の調査では樹木試料が発見されなかった永田川（写真②）においても、新たな試料を見つけることができました（写真③）。今回の調査では、荒天候のため帰路便が欠航となったため、予定外に屋久島自然休養林（荒川地区）であるヤクスギランドも訪れる機会を得ました。天然林において倒木が普遍的に存在することを再確認し（写真④、⑤）、埋没樹木の年輪解析から噴火年代を推定する上で、こうした倒木を適切に除外することが不可欠であることを再認識しました。

なお、本調査にあたっては、前回に引き続き屋久島地学同好会の中川正二郎氏にご協力いただきました。



写真① 宮之浦川右岸に露出する
軽石質堆積物中の埋没樹木。



写真② 永田川での調査風景。流路はほとんど
円磨された花崗岩の巨礫・岩塊が占めるが、右
岸(写真右側)に軽石質堆積物が露出している。



写真③ 永田川の埋没樹木のディスク試料。
水没した状態で産する。



写真④ 屋久杉ランド内の斜面に産する
倒木。天然林では倒木上で種子が発芽し
て世代交代する「倒木上更新」がおこる。



写真⑤ 屋久杉ランド内の溪谷に産する倒木。
枯死した樹木と生育していた樹木が混じると
異なる年代を示すことになる。